

kyoto ころつながるシンポジウム

一人ひとりが安心できる、開かれた居場所づくり

日時：2022年10月14日（金）14：00～15：30（受付開始は30分前）

場所：QUESTION 4階 コミュニティステップス

（市営地下鉄「京都市役所前駅」1番出入口より徒歩約1分）

形態：①会場参加 ②ライブ配信（オンライン会議 Zoom）

定員：①30名 ②80名（お申込みをくださった方に後日、URLをお送りします）

申込：①②いずれの場合も事前にお申込みください。10月6日（木）締切

お問い合わせ：京都市社会福祉協議会 地域支援部 電話 075-354-8732【受付時間：平日（月～金）9:30～16:00】

参加費無料
事前申込制
申込はこちらから



1 発題 一人ひとりが安心できる、開かれた場とは —キーワードは「参加」— 永田 祐さん（同志社大学社会学部 教授）

2 トークセッション

【聴き手】永田 祐さん（同志社大学社会学部 教授）

【語り手】中澤 博子さん（山科区・安朱学区社会福祉協議会 会長）
「フリースペースみんなの家★山科 アルモンデ」

宇野 明香さん（特定非営利活動法人 happiness 理事長）
「ハピネス子ども食堂、ハピネスカフェ、ハピネスハウス」

3 kyoto ころつながるプロジェクト イベント案内

コロナ禍が続き孤立や困窮が深まる中、京都市の社協では誰もが安心して暮らし、つながりのある地域づくりを進めるため、誰もが地域の中で自分の居場所や役割を実感できる場づくりに取り組んできました。

これからの居場所づくりの視点や大切にしたいことを、地域社会を取り巻く状況や先行的な実践から学び合い、あらためて人と人、人と地域社会のつながりの意味を考えます。



永田 祐さん

同志社大学 社会学部 教授

包括的支援体制の構築を中心に、地域福祉や地域包括ケア推進について研究。

主な著書は『包括的な支援体制のガバナンス』（有斐閣）、『越境する地域福祉実践』（共著、全社協）など。

「孤立した人にとっては、地域のつながりや安心できる居場所が、思いもよらない変化を生むことがあります。活動している人同士がつながって、多様な安心できる居場所や活動が増えていく事が大切だと思います。」



中澤 博子さん

山科区・安朱社会福祉協議会 会長

退職後、お世話になった地域に恩返しをしたくて学区社協の役員へ。今も様々な地域福祉活動を展開中。「アルモンデ」は、今あるもの（あるもん）で無理なく気軽に開かれ、老若男女だれでもが集える居場所。

「井戸端会議をする機会もなくなりつつある現在、こんな人と人とのつながりを作れる場所が必要だと感じた。…雑談の中で地域の身近な情報や安否確認ができれば言うことなし！…いろいろなお話をしてくださり、笑顔で帰っていかれたことが何よりうれしい。」（アルモンデの日記より）



宇野 明香さん

特定非営利活動法人 happiness 理事長

結婚・出産を通じ子どもの存在の大切さを実感。自分の幼少期体験から「私みたいな育ち方をしている子は、いっぱいいるはず」とNPO法人を立ち上げた。“みんなで子育てする地域”を目指して幅広く活動中。

「今、共働きやシングル家庭の増加などから、ひとりで食事をとっている子どもたち（孤食）が、すぐ近くにたくさんいることに気がつきました。ひと昔前には当然だった「食事」を通じたコミュニケーションから子どもたちがすすすくと育っていきけるような居場所にしていきたいと思っています。」

